

### 本市の農業について

大野 栄光



【質問】農業を守ることは、地域や環境を守り、市民が安心して生活を築くことへもつながる。高齢化が進む現状に、農業存続が危ぶまれるが、本市の水田農業をどのように考えているのか伺う。

【答弁】【市長】食味日本一の白石米復活プロジェクトへの支援を実施している。

こうした取り組みを通し、付加価値をつけた高収益な水田農業に取り組める環境をつくることで、魅力ある水田農業、担い手の育成につなげていければと考えている。

【質問】後継者不足は、安定して収入が得られないことも大きな要因

と考えられる。自力で

資本投入し、経営を支えているが、利益も少なく、自助努力も限界である。多くの農地を預かり、地域環境を守る耕作者への補助策は考えないのか伺う。

【答弁】【市長】平成26年度から地域の担い手への農地利用集積を進めるため、各都道府県ごとに農地中間管理機構を創設し、新たな支援を実施している。

しかし、借り手への支援がない状況であり、今後、国や県に対し、借り手への支援についても働きかけていきたいと考えている。

【質問】集落営農の共同化を築けない地域では、国からの支援が個人的に受けられないこともある。

大型機械を更新する場合など、大変な利益を損なうことになる。市独自の農業施策として支援することはできないのか伺う。

【答弁】【市長】国の施策を活用しながら進めていき、今後そのような要望を国や県に伝えていきたい。

現在、市としては、独自の支援策は考えていない。

【質問】担い手不足に結婚問題があると考える。多くの独身者の婚活をどのように進めていくべきなのか。人口減少に陥る地域や集落が活性化されるには、家庭や家族が必要である。出合いの場づくりの施策等を伺う。

【答弁】【市長】民間団体と連携しながら、若者の異性と知り合うきっかけづくりと仲間づくりを通じた交際、さらには結婚への応援を行っていることとしている。

### 放射性汚染廃棄物の処理について

佐藤 龍彦



宮城県は、1キログラム当たり8千ベクレル以下の汚染廃棄物を一般ごみと混ぜて焼却し、生じた焼却灰を管理型最終処分場に埋め立てる方針を示した。

【質問】本市に保管されている汚染廃棄物は、どのようなものがあるのか伺う。

【答弁】【市長】農林系汚染廃棄物として、ほだ木が1千948トン、堆肥が1千327・6トン、合計3千275・6トンである。

【質問】焼却以外の方法は考えていないのか伺う。

【答弁】【市長】市町村が独自に選択し、処理可能とされる焼却以外の方法である堆肥化、

すき込み、林地還元について

については、処理時間が非常に長くなることや処理場所の確保など、多くの課題があり、現段階としては優先的に考える状況にはないと考える。

【質問】今後の対応について伺う。

【答弁】【市長】今後は、仙南2市7町の首長で話し合い、次回の市町村長会議へ統一した方針を決定し臨みたいと考えている。

◎子ども医療費助成の拡充について

最近、子育て世代において、経済的に苦しくなっているという声が聞こえている。

こうした状況を受け、現在、多くの自治体において、子育て世帯の負担軽減のために、子ども医療費助成の拡充の動きが進んでいる。

宮城県も平成29年度から通院費の補助対象を、現在の3歳未満から就学前までの引き上げを実施するという方針を示した。

【質問】子ども医療費助成を高校卒業まで拡充した場合の試算を伺う。

【答弁】【市長】高校生の医療費を中学生と同等と仮定すると、入院・通院あわせて1千523万3千円となる。

【質問】子ども医療費の助成拡充を考えられないのか伺う。

【答弁】【市長】非常に大きな予算を必要とすることから、中学校3年生までというのは、1つの大きな区切りと考えており、現在のところ、高校卒業までの拡充は考えていない。子育て支援の中で、屋内遊び場整備やICT教育の環境に予算を充当していきたいと考えている。